

普及センターNews No.205

愛知県海部農林水産事務所農業改良普及課

住所 〒496-8532 津島市西柳原町1-14 (海部総合庁舎内)

電話 0567-55-7611(ダイヤルイン) FAX 0567-25-8943

E-mail ama-fukyu@pref.aichi.lg.jp



『新たな年を迎え 海部地域の農業の発展に向け』

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、農業者の皆様を始め関係機関、団体の方々には、農業改良普及課の業務に対しまして格別の御理解と御支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、去年は、新型コロナウイルス感染症による需要の低迷や燃油等資材の高騰など、農家経営には厳しい状況が続きました。また、生産性の向上や担い手の高齢化・後継者不足への対応は引き続き農業・農村の課題として、その緊急度は日ごとに増えています。一方、国では「みどりの食料システム戦略」が策定されるなど、新たな施策が講じられることになりました。

そうした状況を踏まえ、農業改良普及課では、今年度から計画年度が始まった普及指導基本計画に基づき、スマート農業等新技術の導入や既存技術の見直しによる技術改善と地域における担い手の確保・育成を両輪として、皆様方と連携しながら活動を進め、海部地域の農業の発展に尽力していく所存です。

本年も一層の御支援を賜りますようお願い致します。

海部農林水産事務所農業改良普及課 課長 日比野 好晃

いちご農家を目指す方 募集中！

J A あいち海部では令和3年度から「いちご新規就農支援事業」を立ち上げ、津島市、愛西市でイチゴ栽培を目指す就農希望者を募集しています。農業改良普及課は、市役所やあいち経済連とともに、研修から独立まで支援する「いちご新規就農支援協議会」に参画し、協力していきます。

栽培技術は「あまイチゴ組合」の組合員ほ場で習得します。また座学では、農業改良普及課始め各関係機関が講師となり、イチゴ栽培に関する基礎や経営管理など就農に必要な知識を学びます。

第1回の研修期間は令和4年6月からの2年間で、令和6年5月には新規就農者が誕生します。募集は令和4年1月末までで、随時J Aで受け付けます。詳細はWebサイトで確認してください。



Webサイトはこちらから
(J A あいち海部のサイト)

農業経営士、農村生活アドバイザー、青年農業士新規認定者の紹介

令和3年11月30日（火）、愛知県庁本庁舎6階の正庁において認定式が開催され、新たに6名の方が愛知県知事から認定されました（敬称略）。

● 農業経営士



横井 靖治
弥富市
施設野菜
品質の良い農作物を生産し、日本の食料自給率を高めたい。



渡邊 直道
弥富市
施設野菜
農業経営士として安心安全な農産物の生産を目指し精進します。

● 青年農業士



堀田 貴義
愛西市
露地野菜
地域の繋がりを大切にし、自身も成長できるように精進していきます。

● 農村生活アドバイザー



中野 亜紀子
愛西市
施設野菜
交流を通して学び、地域に貢献できるように頑張ります。



伊藤 美紀枝
弥富市
施設野菜
先輩方から知識や経験を学び、頑張ります。



横井 千広
愛西市
水田作
青年農業士として地域の農業を盛り上げていきたいと思えます。

皆様方の今後の活躍を御期待申し上げます。

新規就農者セミナーで「石灰窒素」を学ぶ

11月2日（火）、海部総合庁舎会議室で新規就農者セミナーを開催し、新規就農者など8名が参加しました。デンカ株式会社技術顧問から、「石灰窒素」の土壤中での分解過程、肥料・農薬効果、環境保全型農業の効果、ジャンボタニシに対する効果的な使用法や注意点について学びました。



石灰窒素について学ぶ参加者

農村生活アドバイザーが碧南市の農家を視察

12月10日（金）、農村生活アドバイザー協会海部支部視察研修会が開催され、会員26名が参加して碧南市の株式会社棚久を視察しました。永井千春代表取締役から、就農の経緯や「野菜教室」などの取組について話を伺った後、ニンジン栽培ほ場を見学し、有意義な研修会となりました。



女性の活躍を聴く参加者

青年農業士が試験研究や農業施策を学ぶ

12月14日（火）、海部青年農業士の会会員8名が参加し、愛知県農業総合試験場と東海農政局を視察しました。試験場ではトマトや花きの試験について、東海農政局では「みどりの食料システム戦略」始め農業施策について意見交換し、経営に役立つ情報の収集や、会員相互の情報交換が進みました。



トマトの試験を視察する参加者